

令和3年度第1回下野市総合計画審議会 会議録

審議会等名 令和3年度 下野市総合計画審議会
日 時 令和3年7月20日(火) 午前10時00分から11時40分まで
会 場 下野市役所 3階 303・304会議室
出席者 中村祐司会長、坂村哲也委員、伊藤陽一委員、石川信夫委員、佐間田香委員、伊澤健二委員、原貞夫委員、津野田仁大委員、石嶋豊仁委員、藤沼昭夫委員、川俣一由委員、諏訪守委員、松本有幸委員、國府田誠委員、高橋裕美委員、木村千里委員、阿久津友紀委員、岡田雅代委員、片桐喜代美委員、齋藤真弓委員
【欠席委員】小幡洋子委員、志田文毅委員
市側出席者 広瀬市長、山中副市長、小谷野総合政策部長、手塚総務部長、山中市民生活部長、福田健康福祉部長、栃本産業振興部長、保澤建設水道部長、近藤教育次長
(事務局) 五月女総合政策課長、松沼主査
公開・非公開の別 (公開 一部公開 非公開)
傍聴者 なし
報道機関 なし
会議録作成年月日 令和3年8月25日

1 開会

(事務局) 令和3年度第1回下野市総合計画審議会を開会します。

2 委嘱状交付

(事務局) はじめに、広瀬市長より委嘱状の交付を行います。
[広瀬市長より委員を代表して阿久津委員へ委嘱状交付]

(事務局) その他の委員の皆様におかれましては、委嘱状を各席に配付させていただいておりますので、ご確認をお願いします。続きまして、委員の皆様より自己紹介をお願いします。
[名簿順に委員の方、広瀬市長、山中副市長、関係部長、事務局より自己紹介]

3 市長あいさつ

(事務局) 開会にあたり広瀬市長よりごあいさつ申し上げます。

(広瀬市長) 本日は第1回の総合計画審議会にお忙しい中ご参加いただきありがとうございます。ただいま、代表してではございますが、総合計画審議会委員の委嘱を行わせていただきました(任期は、令和5年3月31日まで)。新たな委員を迎えるの開催となり、皆様にはそれぞれのお立場で、それぞれの視点で、本審議会においてご審議をいただきますよう何卒よろしく願いいたします。

「第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「設定した基本目標の数値目標」及び「具体的な施策に係る重要業績評価指標（いわゆる KPI）」の進捗状況を毎年検証していただくこととなっておりますが、各事業の KPI の進捗管理を通して、本市が目指すべき方向に、より早く実現させられるよう、そしてより大きな夢を実現できるように皆様でご審議いただければと思います。

また、本日いただいた意見・提言については、庁内の組織である「地方創生推進本部」において検討をさせていただき、次回の会議において回答や対応を報告させていただきますので、併せてお願いいたします。

今年度は2回の審議会開催を予定しており、皆さまにおかれましては、何かとお忙しいとは思いますが、本市発展のためご協力をよろしく申し上げます。

4 会長選任

(事務局)

続きまして、会長選任を行います。下野市総合計画審議会条例第5条第1項において「審議会に会長を置き、委員の互選により定める」と定められていますので、広瀬市長を仮の議長として、会長の選任をお願いします。

(広瀬市長)

会長が決定するまでの間、進行を務めさせていただきます。会長は委員の互選となっています。委員の皆様のご意見をお願いします。

(川俣委員)

宇都宮大学教授の中村先生にお願いできればと思います。

(広瀬市長)

ただいま、宇都宮大学教授の中村祐司委員を推薦するご意見がありました。中村祐司委員は、これまでの経緯も熟知しており、経験も豊富であります。委員の皆様、いかがでしょうか。

(委員)

<「異議なし」の声>

(広瀬市長)

ありがとうございます。どうぞよろしく申し上げます。それでは、会長を中村祐司委員に決定することとし、会長が選任されたので、仮議長の任を解かさせていただきます。

(事務局)

ありがとうございました。中村会長は、会長の席へのご移動をお願いします。

5 会長あいさつ

(事務局)

中村会長よりごあいさつをお願いします。

(中村会長)

会長に選任いただき、誠にありがとうございます。広瀬市長のご挨拶の中でも「様々な視点、お立場で」とのお話がありましたが、委員の皆さまは多彩な現場から、下野市を支える方々が審議会に参加していただいていることはありがたいことだと思います。

コロナ禍ということもあり、会議が短くなることは仕方がないとは思いますが、せっかくこれだけの方々がお集まりいただいていることから、皆様におかれましては、意見をぶつけていただいて、感じたことで結構ですので、発言していただいて、反映させていければと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- (事務局) 中村会長、ありがとうございます。ここで、審議会条例第5条第3項の規定に基づき、会長の職務代理者のご指名を、中村会長よりお願いします。
- (中村会長) 職務代理者として、諏訪守委員にお願いしたいと思います。
- (諏訪委員) よろしくお願ひいたします。
- (事務局) よろしくお願ひいたします。ここで、市長につきましては、公務のため退席とさせていただきます。

6 議 事

- (事務局) 審議会条例第6条に基づき、会長が議長となります。議事進行を中村会長、お願ひいたします。
- (中村会長) はじめに、会議の成立、会議録署名人の確認を行います。本日は出席委員が20名、欠席委員が2名であり、出席者が定数22名の過半数を超えているため審議会条例第6条第2項により会議は成立となります。また、本日の会議録署名人は、慣例に従い名簿順として坂村委員と伊藤委員にお願いします。続いて、議題に入る前に、事務局より資料の確認をお願いします。
- (事務局) [配付資料の確認]

(1) 総合戦略における令和2年度のKPIの進捗状況について〈資料1～3〉

- (中村会長) それでは、議題(1)「総合戦略における令和2年度のKPIの進捗状況について」。事務局より説明をお願いします。
- (事務局) 新たに委員になられた方も多数いるため、総合計画審議会、人口ビジョン、総合戦略、本市における推進体制について簡単に説明させていただきます。

◆下野市総合計画審議会について〈下野市総合計画審議会条例〉

- 今回委嘱をさせていただいた委員の任期は、本日令和3年7月20日から令和5年3月31日までである。
- 総合計画審議会で審議いただく内容は、総合計画の策定、総合戦略の策定及び検証に関すること、その他市長が必要と認める事項である。
- 審議会は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができず、原則公開とする。
- 会議録については事務局で作成後、各委員へ確認をお願いします、会長及び委員2名の署名をいただくとともに、ホームページで公表する。なお、作成にあたっては各委員の発言は委員名を明記した上で作成・公表する。

◆第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略について〈第二期下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略〉

- 人口減少に歯止めをかけ、東京一極集中を是正するため、地方創生に関する施策を総合的かつ計画的に実施することを目的に、まち・ひと・しごと創生法第10条に基づき、令和2年1月に策定し、令和3年3月に改訂したものである。
- 下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略4頁に記載のある4つの基本目標を定め、この目標を達成するための42項目の重要業績評価指標(KPI)を定めている。本日はこの42項目のKPIにおける令和2年度の進捗状況を報告させていただき、検証をいただくものである。

◆本市における推進体制について〈資料1：推進体制図〉

- 総合戦略における KPI の評価・分析、進捗管理を行っていくため本審議会を開催し、客観的な意見・提言を受ける。
- 市長を本部長とする庁内組織である地方創生推進本部が、本審議会と意見交換を行いながら進める。
- 地方創生推進本部の下部組織として関係各課職員で構成する専門部会を組織し、相互に連携しながら進捗管理等を行う。

(事務局) それでは令和2年度の KPI の進捗状況について説明させていただきます。「資料2 下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 進捗状況一覧表」をご覧ください。こちらは、本市の KPI42 項目を一覧でまとめた資料です。年度目標に対する実績状況に応じて A から D の評価を行っています。令和2年度の進捗状況については、42 項目中、年度目標値に対する達成度が 80%以上の項目は全体の 78.6%であり、概ね順調に進んでいるといえます。なお、達成度が D 評価の項目は、4 項目ありました。続いて「資料3_下野市まち・ひと・しごと創生総合戦略評価分析シート」をご覧ください。こちらは、42 の各項目について、基準値、各年度の目標値と実績値、最終目標値を記載するほか、令和2年度の取組や実績値の分析を記載したものです。各項目についての説明は時間の都合もあり、省かせていただきますが、進捗状況が 50%以下の、達成度 D の指標のみ担当部長から説明させていただきます。

まず、4 ページ No.9 移住相談件数について、小谷野総合政策部長をお願いします。

(小谷野総合政策部長) D 評価となった移住相談件数について説明します。本市への移住相談件数ですが、目標値が 60 件に対して令和2年度の実績値は 13 件となっております。基準値が 39 件とありますが、この数値は平成30年度の実績値で、この年は「ふるさと回帰センター」などが主催する移住セミナーが 6 回開催されました。ところが、令和2年度は新型コロナウイルスの影響で移住セミナーがすべて中止となり、その代替策として「ふるさと回帰センター」などが主催するオンラインでの移住セミナーが 3 回開催されましたが、結果として目標値を大幅に減らしたところであります。今年度につきましても新型コロナウイルスの影響が続いておりますので、都内でのイベントは困難かと思われれますが、本市ではオンライン、その他 SNS を活用した相談がいつでも可能ですので、積極的に東京圏への PR に努めてまいります。

(事務局) 続きまして、11 ページ No.32 講座・講演会の年間受講者数、No.34 グリムの森・グリムの館の来園者数、No.35 下野薬師寺歴史館・しもつけ風土記の丘資料館入園者の合計について、近藤教育次長をお願いします。

(近藤教育次長) それでは、教育委員会所管の項目について説明させていただきます。ただいま事務局から説明があった 3 項目については、いずれも新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から、施設の休館、講座・講演会の中止に

より大きく目標値を下回ったため、D評価としたものでございます。

まず No. 32 講座・講演会の年間受講者数です。こちらは公民館、生涯学習情報センター、図書館の年間受講者数の項目でございます。公民館、生涯学習情報センターについては4月14日から5月14日まで休館となりました。また図書館においては4月21日から5月13日までが休館となりました。以降の期日についても時間短縮の措置により講座・講演会が中止となり、年間受講者数が目標値より大幅に下回ったものであります。令和3年度につきましては、感染状況を見極めながら実施をしている状況でして、入館においての検温、住所、氏名等の記載をし、密を避けながら講座などを実施しています。

続きまして No. 34 グリムの森・グリムの館の来園者数でございます。こちらにつきましては、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、やはり期間を定めて休館をしています。こちらは4月14日から5月31日まで休館をしていました。また併せて施設の長寿命化を図るため、10月から3月までの間グリムの館の改修工事をしています。その間、多目的ホールは休館という措置をとらせていただきました。

補足としまして、令和2年度の目標値の件ですが、長寿命化による改修工事を半年間、当初から予定していたことにより、令和2年度の目標値を既定値の半分とさせていただきます。

今年度につきましては利用者のニーズに合わせたイベント等を開催すべく、新型コロナウイルスの対策を十分に行った上で事業の実進を進めているところです。

続きまして No. 35 下野薬師寺歴史館・しもつけ風土記の丘資料館入園者の合計でございます。

こちらにつきましても、4月14日から5月26日まで休館をしていました。併せて風土記の丘資料館については8月15日から3月31日まで、改修工事、新館の増築工事により休館となりました。それらの要因により目標値30,500人に対して5,222人という目標値を大幅に下回ったためD評価といたしました。令和3年度につきましては、5月2日しもつけ風土記の丘資料館のリニューアル、下野薬師寺歴史館が開館20周年を迎えることから感染対策を十分に行ったうえで事業を進めてまいります。

(事務局) 事務局からは以上です。

(中村会長) ただいま、事務局より説明がありました。時間の関係もありますので、事務局ではいくつかの項目に絞って説明をしていただきましたが、説明のあった指標(KPI)以外でも結構ですので、皆様より、質問や意見をお願いします。

(佐間田委員) No. 17 の関係人口関連事業イベントについて、どのようなイベントを行ったのかと、併せて移住、定住相談に結び付けられれば良いのではないかと思います。ご意見をいただければと思います。

(事務局) 関係人口関連イベントは令和元年度から開催している「シモツケクエスト」

というイベントを令和2年度は3回行いまして、オンラインで下野市に関わりたいたいと考えている人を集めて「コロナ後にどんなイベントをしたいか」や「どのような形で下野市に関わりたいたいか」などをテーマに話し合いました。また益子町との共催のイベント「あなたのローカルみつけませんか？」を開催し、下野市のPRを行いました。関係人口関連イベントは関係人口を担当している協力隊2名が中心となって開催しましたが、今年度新たに移住定住担当の協力隊を採用予定ですので、新たな協力隊を中心にオンラインの移住相談に結びつけられればと思います。

(石嶋委員) 移住と転入の違いはどう違うのか。

(小谷野総合政策部長) 移住・定住とは主に都内など首都圏から移り住んでいくことと考えております。人口減少する中で、下野市の魅力を発信し、下野市に移り住んでいただく、都内、首都圏に住まなくてもテレワークで仕事ができる人が増えているので、そういった方に下野市の利便性をPRして転入していただくことが移住・定住につながると考えます。転入では、転勤などで短期的で転出される方もいますが、下野市に長く住んでいただくことが移住・定住と考えております。

(松本委員) 3点お話しさせていただきます。1つ目はKPIの数値化は単に点数をつけることが目的ではないため、評価の低かった項目について、事業の実施状況を分析したうえで次年度につなげることが重要だと考えます。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響があった特異な年で、人流が制限されたことで人を集めたり施設を利用することを指標としているものは必然的に低くなることはやむをえないと思います。ただそのような中でも、例えば移住相談件数や不妊治療の助成件数など、人が動く、集めること以外のやり方で増やす方法があると思いますので、令和3年度は工夫と戦略を練って対応していただきたいと思います。

2つ目は質問になるのですが、PDCAサイクルの中で総合計画審議会はC(Check)にあたると思いますが、そのあとのA(Action 施策・事業の見直し)については総合戦略においてはどのような形で見直しが行われるのでしょうか。

それと3点目も質問ですが、今回配られた総合戦略は策定されて1年で改訂が行われているようですが、どの点が、どのような理由で改訂されたのかをお聞かせいただきたいと思います。

続いて、資料3の評価シートについてお伺いしたい点がありまして、まず、5頁のNo.11 定住促進住宅新築等補助件数の基準値が延30件となっていますが、基準値は令和元年度または平成30年度の単年度の数値ではないかとお伺いしましたが延30件とはどういった数値なのでしょう。それからNo.13 空き家バンクの登録件数の令和2年の数字が目標値、実績値とも1件となっていますがこれは10件ではないでしょうか。それから6頁のNo.15 下野市観光協会HPアクセス数の最終目標値の欄の36万6千件という数字と年度目標値のうちの令和6年すなわち最終年の欄の34万1千件という数字が違っ

ていますが、その理由をお尋ねします。次に、5 頁 No. 11 について、基準値のところ「延 30 件」となっていますが、基準値については、他の指標の No. 2 とか No. 13 とかを見ても、大体、令和元年（2019 年）の単年度の数値を言っているのではないかと思うのですが、ここの No. 11 で基準値が「延」の数字として「延 30 件」と記述されているのは、どういう意味なのかお伺いします。次に、9 頁 No. 27 認知症サポーター数については、総合戦略の本体において、「認知症サポーター養成講座受講者数」として、基準値が 7,881 人、目標値が 12,000 人となっていますので、この評価分析シートの年度目標値の欄も、カッコ内に「延〇〇人」と書くのではなく、「講座受講者数」の各年における「累計」の数字をそのまま「延」を付けず 1 行目にカッコなしで書き込んでおくべきではないでしょうか。もし単年ごとの受講者数も書き込む必要があるならば、各年の欄の 2 行目にカッコ書きでその数字を書く形にするべきだと思います。

また、ここにある令和元年の基準値 7,881 人に令和 2 年の受講者 92 人を加えると 7,973 人にしかならず、令和 2 年の実績値の欄のカッコ内にある 9,389 人とは計算が合わないのですが、この計算では違っているのでしょうか。

更に、最終目標値は、総合指標の本体では「12,000 人」となっており「延」とは書かれていないので、9 頁 No. 27 の最終目標値の欄からは「延」の文字は削っておく必要があると思います。

最後に、この評価分析シートの記述については、総合戦略の本体の記述とすべて平仄を合わせておく必要がありますので、その観点から訂正しておく必要のある部分があります。7 頁の基本目標③の出生数の単位は「件」ではなく「人」ですし、8 頁 No. 21 の年度目標値の単位は「箇所」ではなく「施設」です。また、2 頁 No. 3 の基準値は「1 件」ではなく「7 件」だと思いますし、同じく 2 頁 No. 4 の基準値は「7 件」ではなく「3 件」だと思います。以上です。

(中村会長) ありがとうございます。時間も限られておりますので、最初に大きな質問が 2 点ありましたのでお答えしていただいて、細かいご質問は後日対応していただければと思います。

(小谷野総合政策部長) Action 施策・事業の見直しについてですが、総合戦略については毎年度改定することができるとされていますので、皆さまからいただいたご意見を、内部組織である地方創生推進本部で検討し、各事業の見直しや必要な箇所の改訂を進めていきたいと思っています。また昨年度の改訂箇所については、例としてですが、3 頁の「下野市における第二期総合戦略の基本的視点」と 9 頁「新たな視点を取り入れた新たな取組の立案」に「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するように」といった文言を追記させていただきました。

(中村会長) ご意見はとても重要で、A 評価だから良いというわけではなく、状況によって工夫をしてほしいといったメッセージだったと思います。コロナが終わったからすべてが元通りになるということはないと思いますので、大学でも IT

や SNS を推進して、それらの推進がコロナ終息後に止まるといったことはないと思います。

(岡田委員) No.35 下野薬師寺歴史館・しもつけ風土記の丘資料館入園者の合計ですが、個人的には応援したい事業です。昨年度に続き今年度も講座などを開催するのが難しいと思いますが、昨年度から大きく変わったのがしもつけ風土記の丘資料館が新しくなって、展示も最新の展示手法を使っていて、先日拝見したところと同じ展示でもストーリーが変わってとても感心しました。薬師寺歴史館についても2年前にボランティアの方と歴史館の周辺を歩くイベントに参加したところ、そこに住む人と調和していてとてもすばらしいと感じました。さらに近隣で発掘調査が公開されていたので参加したり、歴史館の講座にも参加しましたが、歴史館の開設20年を迎えますが、文化財課の研究調査も進んでいて、そういった知見を発表する場はとても貴重だと思います。これらの調査公開や講座などは継続することによって、リピーターが増え、参加者同士の交流が増えると思います。風土記の丘資料館については講座などをする場はありますでしょうか。

(近藤教育次長) 風土記の丘資料館につきましてはリニューアルをしまして、展示も充実しました。講座につきましても新館の会議室を使って充実させていければと思います。

(岡田委員) 地域を知ることは地域プライドに繋がり、子ども達が地域を愛することにも繋がる、飛躍する言い方をすれば自分を好きになることにつながりますので、文化財事業をマニアックな事業ととらえずに進めていただき、ぜひ下野市でも広域的に進めていただければと思います。なぜかという、歴史館も少し行くと上三川ですし、風土記の丘資料館も県道に沿って大きな古墳など文化財の重要資源がありますが、小山市と栃木市と壬生町に跨ってあります。各市の計画はどうしても各市のPRのためのものになりますが、たとえば小山、壬生を跨ったツアーなどあればいいなと個人的に考えていまして、なかなか市町を超えた連携が難しいと思いますが、アフターコロナを見据えて長期的に検討していただけたらという意見です。

(近藤教育次長) 文化財の広域連携については上三川町、壬生町との連携は進めているところであります。またそこに小山市を加えた広域連携については今後検討してまいります。

(2) 地方創生関連交付金事業の KPI の進捗状況について〈資料4・5、資料4・5参考資料〉

(事務局) こちらも、まずは制度の説明からさせていただきます。資料4・5参考資料をご覧ください。

地方創生関連交付金制度とは、国が、地方版総合戦略に基づき地方創生を実現していくため、同戦略に位置付けられた地方創生事業であって、内閣総理大臣の認定を受けた先導性の高い取組を財政的に支援する制度で、事業費の1/2が国から交付されます。ソフト事業を支援する地方創生推進交付金とハード事業を支援する地方創生拠点整備交付金があります。

申請にあたって重要業績評価指標（KPI）を設定し、その進捗状況を外部委員により検証することとされており、これに基づきまして皆様にお示しするものになります。

下野市では、地方創生関連交付金を活用しまして様々な事業を展開しております。

事業の内容については、まず「地方創生推進交付金」として、表紙を一枚めくっていただいて、「広域公共交通でつなぐ地域の宝（人・観光、健康、仕事）1市2町連携プロジェクト事業」、さらに一枚めくっていただきまして、「6次産業化施設ゆうがおパークの活性化事業」、さらに一枚めくっていただきまして、「下野市を知ればもっと好きになる！交流・関係・定住人口好循環拡大プロジェクト事業」の3件です。

続きまして、「地方創生拠点整備交付金」はページをめくっていただきまして、「夜明け前リノベーション事業」「グリムの館 施設整備事業」最後のページ「下野薬師寺歴史館 増改築事業」の3件となります。

もどりまして、資料4・資料5をご覧ください。

資料4は地方創生推進交付金、資料5は地方創生拠点整備交付金のKPIの進捗状況を表にしております。上段に年度目標値、下段に実績値を記載し、さらに分析や今後の取組を記載することにより総合戦略と同じような形式にしております。

なお、年度目標値であります。採択に向け国の担当者と相談の中で、このくらいの目標値が必要ですよというアドバイスを受けており、少し高めになっているという現状があります。

1つ1つの中身についての説明は、時間の都合もありますので、割愛させていただきます。

KPIの修正については、国の採択事業のため、難しいところではありますが、進捗状況を基に今後の進め方などについてご提言をいただければと思います。説明は以上になります。

（中村会長） では、資料4・5に関係してなにかご意見はありますか。

（坂村委員） 東京圏からの転入者数とありますが、転入者や転出者がなぜ転入・転出するのか、その理由が分かれば教えてください。

（小谷野総合政策部長） 転出者については高校を卒業して首都圏への転出が多くなっております。逆に転入につきましては年代別に見ますと30代から40代の方の転入が多いのですが、下野市では仁良川の区画整理事業を行っておりまして、新たな住居を求めて転入される方が多くなっております。転入者については市民課でアンケートをとっております。また、昨年度国勢調査が実施され、先日、速報値が出されまして、下野市の人口は平成27年度の59,431人から、速報値ではありますが、48名増の59,479人とほぼ横ばいとなりました。このあと詳細なデータが公表されましたら改めて分析していきたいと思っております。

（坂村委員） 転入、転出者の詳細な理由をさらに詳しくお調べいただければ我々の分からない理由などもあると思っておりますのでさらに詳しい調査をお願いします。

- (高橋委員) グリムの館のお菓子の家は今空き家になっていて、新しい経営者の方を募集していたと思いますが、その後の動きがあれば教えてください。
- (近藤教育次長) お菓子の家につきましては昨年 12 月をもって運営者が撤退しました。新型コロナウイルスの影響で収益が落ち込んでいたことが理由となります。新しい運営者については決定しまして、再開に向けて準備を進めているところであります。新しい運営者は宇都宮でマツガミネコーヒーを経営している方です。
- (佐間田委員) プチハピしもつけは私も楽しみに見ている、SNS を活用していて素晴らしいと思います。ゆうがおパークの経営診断は、すごく改善していて、さすがプロの経営診断だなと感じましたが、こういう経営診断を別の売上が落ちている施設で利用できないものなののでしょうか。
- (栃本産業振興部長) 他の事業でも経営が厳しいところがありますが、まずは各事業者が経営診断を自主的に行っていくことが基本だと思います。今回のゆうがおパークは公設民営の施設の経営診断ということで地方創生推進交付金を有効に活用する事業としてうまく合致したため採択されたものです。ゆうがおパークの経営改善は今回の経営診断の結果もあると思いますが、各事業者で運営する事業組合の組合員の方々が経営改善するという意識を持ってもらったことが大きいと思います。経営状態について悩みをもっている団体はおられますので、そういった団体とは今後情報交換をしていきたいと思っています。
- (佐間田委員) 資料 3 に戻ってしまいますが、資料 3 の分析シート No37 について、自主防災組織がなかなか増えないと伺っていたなかで、昨年度新たに 3 組織が増えたとのことで大変心強いところですが、市として組織を増やす働きかけがなにかあったのかお伺いしたいと思います。
- (山中市民生活部長) 令和元年度まで各自治会や出前講座で周知していたところですが、各自治会の様々な事情でなかなか設置されない状況でありましたが、令和元年度の台風 19 号を受けて、改めて自主防災組織の必要性を説明会などで説明したことにより令和 2 年度に 3 組織増えたということです。今年度も台風 19 号の反省を踏まえて、特に洪水浸水想定区域に自主防災組織の必要性を働きかけていきたいと思っています。
- (松本委員) 先ず、先ほどの議題 (1) に関して一言申し上げますと、総合戦略の昨年度の改訂では、施策・事業の推進に当たって「新型コロナウイルス感染症の感染拡大に対応するように」との趣旨の文言を追記したという説明でしたが、このような重要な趣旨の追加があったのであれば、その趣旨を踏まえた具体的な取組みについても、第 2 章の具体的な施策の中で追加して記述する必要があったのではないかと感じました。
- 地方創生関連交付金事業の資料 4 および 5 の分析の欄につきましては、きちんとした分析の結果が記述されていると思いますので、これで結構だと思いますが、いくつかお伺いしたいと思います。
- 先ず、地方創生関連交付金事業について初歩的なことを教えて頂きたいのですが、目標値が、推進交付金活用事業については令和 3 年度まで、拠点整備

交付金事業については令和2年度までとなっています。そこで、目標値はどのように定められるのかということを知りたいのですが、3年間なら3年間における各年度の目標値を最初にあらかじめ決めてしまうというやり方なのか、それとも前年度の実績を踏まえて当年度の目標値を定めるというやり方なのか、という点です。また、拠点整備交付金事業について、令和3年度の目標値はありませんが、これは、施設整備後の例えば3年間だけ目標値を定めてチェックするというので、3年過ぎたので令和3年度の目標値はもう定めなくて良いということでしょうか。

2点目は、資料4の(1)の1番目の広域連携バス利用者数についてですが、先ず、年度目標値と実績値とがかなり違う数字になっていますが、これらは基準となるベースが同じ数字と理解してよい

のでしょうか。もしそうならば、令和2年度の目標値を急拡大させているのは、どのような理由からなのでしょう。ここで掲げているKPIの数字は、一定の積算に基づく数字であって、実利用者とはベースが異なるということで説明がつくならば、無理に急拡大させる必要はないのではないかと感じてしまいますが、どうなのでしょう。また、この広域連携バス利用者数の指標は、先ほど議論した総合戦略の評価分析シートのNo.39の「1市2町広域連携バス乗降者数」と同じものだと思いますが、こちらに書いてある数字はすべて実利用者だと思いますので、分かりやすいです。しかも、目標の増加率が毎年8%程度でリーズナブルな数字になっていると思います。

3点目は、資料4の(3)の2番目の「アニメファンクラブ会員数及びSNSを活用した情報発信サポーター数の合算」の年度目標値についてですが、令和2年、3年、4年の年度目標値の数字が、100、150、50と上がったたり下がったりしているのは、どういう理由からなのでしょう。また、(3)の1から4までの4つの指標については、令和4年度の目標値の欄も設定されていますが、これはどういう理由なのでしょう。

それから、最後に指摘しておきたいと思いますが、資料5の一部に、平成31年度と書かれた欄がいくつかありますが、令和元年度と修正しておく必要があると思います。

(山中市民生活部長)

広域連携バス利用者数の目標値についての質問ですが、まず目標値の増加分については、令和元年度はバスの運行が10月からになりますので令和2年度は目標値が大幅に増えております。資料3のNo.39と同じ指標ですが、委員のご発言どおり資料4は輸送量ベースとなっており、バス運行経費に係る国の補助基準がこの輸送量ベースとなるため、広域連携として上三川町、壬生町と同じベースで記載しており、下の段に補足的に実利用者数を記載しました。

(松本委員)

初年度の令和元年度が運用開始後に半年間しかなかったため2年度目の伸びが大きく見えることは分かりました。年度目標値が実績値に比べてかなり大

きな数字になっているのは、事業の枠組みの中で決められるので仕方がないという面があると理解しますが、総合戦略の指標 No. 39 との関係が問われますので、両者の関係が辻つまが合う形できちんと説明できるようにしておくことが求められると思います。

(中村会長) 時間も限られてきましたが、3 頁の関係人口の事業だけ令和 4 年度まで目標値が設定されているのは、プロジェクト自体が長いわけではないのですね。その点だけ確認させてください。

(小谷野総合政策部長)

地方創生推進交付金につきましては申請年度を基準として3年間の KPI を設定することとされています。また地方創生拠点整備交付金は申請から5年後まで設定することとされており。目標値の設定には国の指導が入っておりますのでなかなか達成が難しい数値が設定されることもあります。それとアニメファンクラブの件ですが、3年間で300人の会員を加入させるという設定をしましたので、このような目標設定となりました。

(松本委員) 令和3年度だけ少なくなるような凸凹の数値となっているのはなぜですか。
(事務局) アニメファンクラブについては固定ファンが多いため、初年度、2年目が多く加入されるだろうと考えられましたので初年度、2年目を多く設定しました。

(3) その他

(中村会長) (3) その他に入らせていただきます。事務局から何かありますでしょうか。
(事務局) 本日、皆様に2冊パンフレットを配布させていただきました。1冊目は下野市の移住促進パンフレット「下野市100のコト」、2冊目が、昨年度から下野市を高校生が街歩きして作成しました「石橋駅周辺街歩きマップ」です。是非この機会にご覧頂ければと思います。事務局からは以上となります。

(中村会長) 委員の方からは何かありますでしょうか。
先ほどのかんぴょう祭りの話がありましたが、かんぴょうといえば下野市といったイメージが定着してきました。かんぴょうは栃木県内でいくつか作られていますがかんぴょうといえば下野市といったものがあると県内、県外の方から魅力とか見方が良くなると思います。それから今回の資料についてかなり細かく記載されてありまして、数値も大切なのですが、内容が丁寧に記載されているとこちらとしても役立っていますのでこのスタンスを続けていただければと思います。
それでは、委員の皆様、本日はありがとうございました。皆さまのご協力によりまして、本日予定された議事はすべて終了いたしました。進行を事務局にお返しします。

7 閉会

(事務局)

本日の会議はこれで終了となります。長時間にわたりありがとうございました。

以上

会議の経過を記載し、その相違がないことを証するためにここに署名する。

会 長.....

署名委員.....

署名委員.....